



現地報告

「ルワンダトゥワ族の現状から見る社会の闇」

ARC 大阪インターンの乾敏恵（同志社大学大学院修士2年）が、2012年8月から9月にかけての約3週間、ルワンダ現地 NGO の COPORWA でインターンシップを行いました。COPORWA は、かつて「トゥワ（Twa）」と呼ばれたピグミー系の人々の支援を行う NGO です。トゥワの人々の姿を通じ、現在のルワンダでもあまり光が当てられない問題について報告いたします。

現在、ツチ・フツ・トゥワという民族名は廃止され、トゥワの人々は歴史的に排除された人々（以下 HMP : Historically Marginalized Population）と呼ばれています。HMP は、ルワンダの人口の約1%と言われ、壺などの焼き物や、農業を行うことで生計を立てています。しかし、歴史的に差別されてきたという歴史があり、ルワンダでは、状況は回復しつつありますが、現在でも極貧生活を強いられています。インターンシップでは、HMP についてのレポートや資料を読ませて頂いたり、実際にプロジェクトの運営に関わらせて頂いたりすることで、HMP への理解を深めてきました。



プロジェクトの運営では、Policy Action Learning and Initiative(以下、PALI)に参加しました。これは、各ウムドゥグドゥ（≒村）に数人いるソーシャルヘルスワーカーを HMP から排出するため、政府に働きかけるアドボカシーです。HMP からソーシャルヘルスワーカーを排出することによって、HMP の医療へのアクセスを増加させることを目的としています。このプロジェクトは、特に HMP の状況改善が遅れている南部州のニャルグル・ディストリクトにおける3つのセクターを対象としました。このプロジェクトを公式に発表する会議をニャルグル・ディストリクトで開催し、当日にはハブニングもありましたが、メディアで取り上げられるなど、会議は成功に終わりました。このプロジェクトはまだ始まったばかりであり、今後、このエリアの HMP の状況は改善して行くのか、見守っていきたいと思います。



また、インターンシップでは、実際に HMP の村を6か所訪れ、インタビューを行う機会を得ることができました。どの HMP の村も非常に貧しい生活をしていました。彼らは、壺などの焼き物売り、生計を立てているが、村によっては、焼き物だけではなく、芋やバナナを栽培し、それを生活の糧にしている所もありました。焼き物と農耕を両方行っている村の方が、焼き物のみで生計を立てている村よりも、生活にゆとりがあるように思えました。しかしながら、彼らの生活は極貧であることに変わりはなく、1日1食（夕食）のみで、それも、豆とキャッサバのみの食生活を送り、衣服もみすぼらしく、子どもも、極度の空腹により学校にも通えないという状態でした。さらに、大人



の HMP は、教育を受けることが出来なかったために、職に就くことが出来ず、安定した収入を得ることが出来ないということも伺いました。もちろん、政府は、HMP やジェノサイドサバイバーなどの脆弱な人々に対する福祉政策を次々に発表しています。しかし、そのような人々に対する支援は、まだまだ、発展途上の段階であり、今後どのように政府が貧困削減に尽力していくのかが、HMP をはじめとする脆弱な人々の生活向上へのカギとなるのではないのでしょうか。そのため、ルワンダがどのように成長、発展、そして変化していくのか個人的に非常に楽しみです。

（乾敏恵）



プロジェクト報告—ARCルワンダ子ども支援基金

ARCは2002年以来、ジェノサイドによる戦災孤児やエイズ孤児が小学校に通えるように「ルワンダ子ども支援基金」プロジェクトを行ってきました。このプロジェクトの協力団体は現地NGOギシンバ・メモリアル・センター(Gisimba Memorial Center: GMC)です。プロジェクト開始から10年がたちましたが、ルワンダの孤児たちをめぐる現状について、GMCのソーシャルワーカー、イルデフォンス・ニヨンガナ氏(Mr. Ildephonos Niyongana)にお話を伺いました。



(インタビュアー 乾敏恵 ARC 大阪インターン)

質問項目 & 解答

1. 孤児院で育った子ども達と一般家庭の子ども達の間、例えば就職、進学において格差、あるいは差別などが生じているのでしょうか。生じている場合はどのようなもので、またどの様に子どもたちの自立に影響しているのでしょうか？
→特に差別や格差はなく、皆平等に進学、就職することが出来ます。しかし、孤児院で育った子ども達が、一般家庭で育った子ども達が多い環境にどのように適応していくかが現在の課題です。そのため、メンタル面での教育や、ケアが必要となっています。
2. 孤児院廃止の動きがルワンダ政府で見られますが、その動きがギシンバ・メモリアル・センターの運営にどの様に影響しているのでしょうか。例えば今までスポンサーにあったNGOが支援をやめる、政府から撤退を求められるなどはありますか？
→長期的な政府の政策により、孤児院は廃止の傾向にあります。しかし、孤児院が完全になくなるというよりは、事業を縮小していこうという傾向にあります。政府としてはやはり、子ども達は、家族の中で成長していくことが良いという考えがあります。そのため、叔父・叔母・いとこなど、親戚がいる子どもには極力そちらの家庭の中で暮らすよう、政府は促進しています。しかし、両親、親戚がいないなどの理由で、家族と暮らせない子ども達は、孤児院で暮らすこととなります。しかし、貧しい

家庭であれば、子どもを育てていくことが難しい場合があります。そのような場合には、子ども達は食事は孤児院で提供してもらい、各家庭で暮らすという選択肢もあります。これは、非常にセンシティブな問題であるため、各家庭と孤児院のとの間で同意を取ったうえで、どのように子ども達を育てていくか決められます。政府による孤児院縮小の方針はありますが、孤児院が無くなるということはありません。ただ孤児院というのは最終手段であり、各家庭で子どもを育てていくことが一番であると考えており、規模は縮小されていくと思います。



絵を描いている子どもたちの様子



☆大阪インターン紹介☆

乾 敏恵 (いぬい・としえ)

大阪府高槻市出身、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科修士2年生。学部時代に、シアトルにあるワシントン大学での平和学留学がきっかけで、アフリカに興味を持ちました。現在、ルワンダの(民族的)マイノリティについて研究をしています。趣味は、テニスで週1回しています。難しいことだらけですが、楽しみながら、どんなことにも挑戦していきたいです。



アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511

Tel/Fax : 03-3351-0892 E-mail : headoffice@arc-japan.org

ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター始めました！アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています！

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください！



フェイスブック始めました！日ごろのARCの活動内容や、アフリカに関連するイベントや情報の発信をしています！

【ARCページ】 <http://www.facebook.com/ARCJAPAN>このページに「いいね!」、「シェア」をお願いします！